



JIC インフォメーション

第 143 号 2007 年 2 月 10 日

年 6 回 1・2・4・6・9・11 月の 10 日発行

1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-1 小島ビル 6F

TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪オフィス: 〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-1-22 フェアステージ大手前ビル 5F

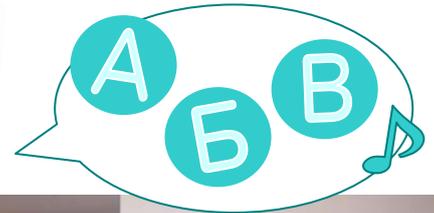
TEL: 06-6944-2315 jicosaka@jic-web.co.jp

ロシア
白
ソ連
国
際
交
流
誌

今年こそ!

ロシア語の勉強をはじめませんか?

あなたはロシアへ語学研修に行く?
or ロシア語講座に参加してみる?



4 月 2 日(月)~

ロシア語講座

前期 全 8 クラス

随時開講!

JIC 東京

4 月 16 日(月)~

ロシア語講座

前期 全 4 クラス

随時開講!

JIC 大阪



JIC ロシア講演会 阿部昇吉氏

「ロシア文学に魅せられて~私のロシア語学習遍」・2-5P

論文コンクール優秀作品「熱くて近い国」青木緑・・・6-7P

ロシア版「PRIDE」パンクラチオン!・・・8-9P

JIC モスクワ通信 vol. 4・・・9P

演劇プロデュース チャイカ・・・10P

「ウラジオストクを初訪問」・・・11P

ペンパル情報・・・12-13P

新刊のご案内・・・14P

JIC 情報・・・15-16P

JIC では、Jクラブ(JIC 友の会) 会員を募集しています。
年 6 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

JICロシア講演会 2006年11月18日(土)@東京

ロシア文学に魅せられて～私のロシア語学習遍歴

創価大学 阿部昇吉氏

2006年11月18日(土)、JIC東京にて、創価大学の阿部昇吉先生を講師にお招きし、「ロシア文学に魅せられて～私のロシア語学習遍歴」というテーマで講演をしていただきました。ロシア留学を考えておられる方々をはじめとして多くの方にご参加いただき、大変興味深いお話を楽しむことができました。当日ご参加いただけなかった方々のため、またもう一度先生のお話を振り返りたい方々のために、そのお話を2回に分けてご紹介させていただきます。今回はその前編です。



私は早稲田大学でロシア語とロシア文学を学びました。当時の早稲田は文学研究が主で、語学は二の次といった風潮でした。ですから先生に語学の質問をしても「文法にこだわっていると、文学が理解できなくなるよ」と言われたりしたものです。その後、大学で教鞭をとるようになると、自分のプラクティカルな語学力のなさを痛感して、なんとかしなければと焦りました。そこでロシア語の同時通訳をしている友人に勧められて、ロシアのテレビ番組を毎日見ることにしました。当時はインターネットも未発達でしたので、直径が1.8メートルのアンテナを自力(!)で立てて、極東向けの衛星放送を傍受したんです。

いろいろ観ているうちに、一番自分にぴったり合っているというか、ヒヤリングやスピーキングなどのロシア語力を向上させるのに良いのは、実はロシアのニュース番組でも歌謡ショーでもなく、何のことはない海外の吹き替えドラマだと気が付きました。ブラジルの作品ですが、「プロスタ・マリヤ」(＝マリヤは最高)という、女性が成長していく「おしん」のようなメロドラマが放映されていたのですが、吹き替えですからすぐくはっきりロシア語を言ってくれるんですね。これがとても分かり易い。昼ドラのようにほとんど毎日放送されるので、毎日勉強する癖もつきました。ロシア語を勉強している方は、吹き替え映画を見ると自信がつかますよ。どんどん分かっていきます。アニメの吹き替えなんか良いですね。使われている単語も少なくてもいいですし、それだけ覚えておけば話すときにすぐ役に立ちます。ちなみに日本だと、漢字はだいたい400字覚えておけば日常生活は大丈夫だろうと言われています。ロシア語だと少し多くて、最低でも1000語、できれば1500語くらい覚えているといいかなと思います。



現地に行かないと分からないことがある

ロシアのテレビを見ているうちに、とにかく一度はロシアに行っておないと、現地の生活に実際に触れておないとダメだなど思うようになりました。そこで、アンテナを設置した年の夏にロシアに行ってきました。1992年の夏、ちょうどゴルバチョフさんが退陣したあとのエリツィン時代で、もう怒涛のような時代でした。物価はどんどん上がっていくし、社会主義が崩壊してロシアに資本主義がすさまじい勢いで流入してきた時代です。人々は皆どう生きていいのかわからないわけです。それまでは社会が全部保障してきたけど、これからは自分でお金を稼がなきゃいけない。どうやって生きていけばいいのか、「稼ぐ」という意味が分からない、そういう時代でした。

それから毎年ロシアに行くようになりまして、もう20回くらいになります。夏が一番時間を取りやすいのですが、学生時代に初めてロシアに行った時にロシア人に言われた「冬に来い」という言葉が心の底に貼り付いてまして、じゃあ冬にも行こうということで、94年の冬にモスクワのインスティテュート・マラジョージ(青年研究所)に一ヶ月間行ってきました。でも、もう二度と冬には行きたくないですね。とにかく寒い(笑)。-30度です。室内が+20度だから、外気との温度差が50度ですよ。で、その時一緒に行った友達がいるのですが、寮に泊まった次の日に風邪を引きまして、「どうした」と聞くと「いや～、スチームが壊れていてダメだった」と言うのです。「どっち側を枕にした？」って聞いたたら、「窓側」。それでは風邪ひきますよね。これが

らロシアに留学する人の教訓として、「冬は窓側に枕を置かない」というのを一つ覚えておいていただきたいと思います。

何回もロシアに行く中で言葉もいろいろ覚えたり、食べ物も美味しくて、今日の資料に書いてある食べ物はもちろん全部食べました。ボルシチとか有名な料理はいろいろありますが、私が食べて一番びっくりしたのは、ピラジョークってやつです。日本語で言うとピロシキですが、実はピロシキはピラジョークの複数形なんですね。いろんなものを中に詰め込みます。肉でも野菜でも魚でも何でもかんでも詰め込んで揚げます。ある時、ルイナク(市場)でこのピラジョークを1つ頼んで、あけてみたら何とごはん、米が入ってたんです。外もデンプン、中もデンプンですよ。でも美味しいんですよ。この辺は日本人にはない発想ですね。

逆に、料理で苦い思い出はカーシャ(=おかゆ)です。そばで作ったカーシャ、ソバがゆというのがありまして、寮の学食で食べると必ずこのカーシャが出てきたんです。最初のうちはまあ食べていたのですが、どんなに美味しいものでも、毎日出されたらたまりませんよね。4日、1週間と続くともう食べられない。で、あるとき友人のうちに招待されて行ったら、今日は腕によりをかけて料理を用意しましたと言われまして…。もう皆さんお分かりですね。ソバのカーシャが出てきたのです。もう戻しそうになりながら食べました。ですからいまだにカーシャを目にすると、ちょっと拒絶反応があります(笑)。

毎年、学生を連れて行くので、モスクワ大学がすごく大事にしてくれまして、大事にしてくれるのはいいのですが、「あなた暇でしょ。学生達は勉強しているから、あなたも何か興味があることを勉強して下さい」ということで、「それなら現代ロシア文学を専門にしているので誰か詳しい先生がいれば…」と言ったのが発端で、1コマ90分の個人レッスンを毎日3コマもやることになってしまいました。90分間、分からないのになんとニコニコしている訳にもいきません。全身全霊で相手の言っていることを聞くという90分間、それを毎日3コマやって、へとへとになって一週間過ごしたという経験があります。ほんとに初めのうちはチンプンカンプンなんですけど、徐々にそれまでバラバラだった知識が頭の中で有機的に繋がっていくような感じで、だんだん分かってくるのが嬉しかったですね。そうするうちに、アンナ・セルゲーエヴナ先生という先生の授業を受けることになりまして、ロシア文学を読まれている方は「あっ」と思うかもしれませんが、チャーホフの『犬を連れて奥さん』の主人公の名前ですね。最初にアンナ・セルゲーエヴナ先生が担当について下さいますよと言われた時、ドキッとしました。すごく美しい方かと思って…。実際お会いしたとき、「あっ、昔は美しかったんだろうな」という感じ

の60歳代の女性でした(笑)。私のロシア語の論文や著作を気軽に校閲して下さいたり、授業で疲れてくると「じゃあ、お茶を飲みましょう」と淹れて下さったりと気さくな方なんです。このお茶のみの時間に色々なトークが出来て、とても楽しかったですね。アンナ先生は本当にいい先生で、モスクワに行く度に先生に会うのが楽しみになりました。

会話から対話へ！

ロシア語学習のコツとはいきませんが、今日はロシア語で会話できるようになりたいという方が多そうなので、コミュニケーションというものを少し掘り下げてみたいと思います。

一番初めの段階は、「こんにちは」とか「さようなら」とか、基本的なく挨拶の交換です。日常、当たり前なやり取りですね。

その次は<情報>の交換です。「今日は曇りだけど雨降らないかな」「いやあ大丈夫じゃない？天気予報では晴れると言ってたよ」とか、「それどこで買ったの？」「あそこだよ」といった内容です。ここまでは、反射神経が要求されます。スピードが大事です。「こんにちは」と言われて30秒くらい考えてから「こんにちは」と返してたら、人間関係うまくいきませんよね。ここまでの会話はもう反射神経的に、ぱっと答えないといけない。ロシア人相手にこれが出来ないと、「あっ、この人ロシア語全然出来ない」「イヂオットだな」—イヂオット(идиот)ってアホってことですが—と思われるんです。この情報の交換までは普通の会話のレベルと言えます。

この次に、自分の考えや思いといったものを伝える段階になると思うのです。頭を使う、もしくは心を使うということです。別の言葉で言えば、<思考>と<感情>の交換です。相手が知りたいと思っていることをつかんで、相手に自分の考えを伝える、逆に相手の考えを聞く…。よく対話はキャッチボールと言いますが、まさにキャッチボールですよ。ここからはスピードではなくて、内容が勝負になります。厳密に言えば、先に述べた挨拶や情報の交換は「会話」であり、お互いの考えや思いを伝え合うほうは「対話」と言うべきだと思います。この際、対話の中で相手が知りたいのが「考え(意見)」なのか、それとも「思い(感情)」なのか、ちゃんと推し量る必要があります。ストレートを待っている人にカーブを投げたら、取りそこなうかもしれませんから。

私たちがロシア人と話をするときに、この「対話」にまで踏み込むことができると、とても面白い。やはり対話を目指すべきですね。チェコ語の千野先生も著書『外国語上達法』で仰っていますが、「こんにちは」と見知らぬ外国人と会って、挨拶を交わして「さよなら」と言う、それで満足して「わあ、自分の言葉が通じた」と喜ぶ人がいるけれど、そうではないだろうと。日本人はどうも挨拶や情報の交換レベルが対話だと思っている人が少なくないようです。

モスクワ大学で指導を受けた方の中に、ワルラーモフという当時30代の髭面の、見るからにロシア正教の僧侶のような人がいたのですが、ある時、私がロシア現代文学に興味があるという話をしたら、「自分は作家だ。もうじき自分の短編集が出る」ということで作品を読ませてくれました。とてもいい作品だったので褒めると、今度は自分の作品を全部持ってきてくれました。当時はまだコピー機が普及してなかったから、全部タイプライターで打った原稿です。もうすぐ出版されて本になるから、全部やると言われて、恐縮しました。こちらとしても答礼の意味を込めて、滞在していたモスクワ大学の寮に「簡単なディナーを用意しますから」と招待しまして(ディナーと言ってもレトルトのスパゲッティや缶詰といった程度ですが)、ワルラーモフさんと呼んで、グルジアワインを飲みながら話しました。話しているうちに、だんだん本音というか、日ごろ思っていることも話してくれるようになって、会話から対話のステージになっていきました。

「日本人について私はすごく疑問に思っていることがある」。「何だ」と聞くと、「私は長い間モスクワ大学で日本人学生を教えている。みんなとても良い子だ。優しいし、表情豊かで、可愛らしい。ところが何年後かに会うと、ほとんどの子はみなお面のような顔で、無表情になってしまっている。これはどういう事なんだ？」と言うのです。どういう事なんだと言われても、私は日本代表じゃないので困ったんですけど、「まあそういう人もいるし、そうじゃない人もいるでしょう」と答えるのが精一杯でした。やっぱり作家の感性って鋭いですね。

私にも一つだけ聞きたいことがあって、それは「なんで小説を書いているのか」ということでした。聞いてみたら、「自分の中にある血が『書け！書け！』って言うんだ」と言うんです。「才能は関係ない。書きたいというその思いで書くことが大事なんだ。それで書いているんだ」と。彼のこの話が遠因となって、余談ですが私も後に小説を書くようになったんです。

実は、テレビだけでなくロシアのラジオも傍受してたんですが、その数年後に、アンチブッカー賞—これはイギリスのブッカー賞に対抗してロシアが勝手に作った賞なのですが—その受賞者が決まるとラジオが言ってまして、その賞の一回目の受賞者がアレクセイ・ワルラーモフだというニュースが飛び込んできたんですね。びっくりしました。彼はその後活躍してまして、今は文学新聞にコラムを持って書いてます。余談になりましたが、そんなふうな会話から対話にシフトすることも頭に入れて学習に励むと、語学も楽しくなるのではないかなという気がします。

チンギス・アイトマートフさんとの出会い

もう一人、非常に印象に残った作家との出会いがありました。チンギス・アイトマートフという人です。キルギス出身で、

ゴルバチョフ政権のブレインのひとりでもありました。日本語に翻訳されているものでは、『最初の教師』とか『ジャミーリヤ(邦訳・絵の中の二人)』といった作品がありますが、私も彼に興味を持って研究していました。

基本的に私のロシア語学習のコツというかポイントは、失敗を糧にするということなんです。こう言えばカッコいいけど、要はいっぱい失敗してるという事です。でも失敗すると忘れない。記憶に残るんです。アイトマートフさんと会った時も、大変な失敗をしました。1998年に彼が日本に来ました。関西や沖縄を講演して歩いてまして、私の友人が通訳をしていたのですが、電話がかかってきました。「今週の金曜日に創価学園で講演があるから、よろしかったら12時半に来てアイトマートフ氏と会いませんか」と言うんです。で、大学の授業を休講にして出かけました。朝8時に起きて、8時半に新横浜から「のぞみ」に乗って大阪に向かったんです。関西創価学園というのは辺鄙な場所にありまして、必死の思いで12時半に門の前に着いたのですが、何かちょっと様子が違うんですね。「こんにちは、今日アイトマートフさんはいらっしゃって…」「いや、いらしてないです」その瞬間、そうだ創価学園は2つあるんだと気づきました。東京の小平市にもあるんです。事務の方が小平に電話して聞いてくださいました。返事は、やはり「はい、来てます」。

しょうがないので帰るしかないのですが、新幹線の中から午後四時半に友人の携帯に電話したら、ちょうどタクシーで移動中でした。友人の隣にアイトマートフさんがいて、「間違っって関西に行ったという話は伝えてあります。レセプションがあるので時間はそなたにとれないけど、ホテルに6時半に来てください」と言われて、再び東京に戻って、ようやくアイトマートフさんとお会いしました。

会うまでの間、時間がありましたのでじっくりと質問とお願いと要望を1つずつ考えました。最初の質問ですが「あなたにとって、男女の愛とは何ですか」ちょうど『愛しのタパリョーク』という作品を訳していたところだったので、聞きたかったのです。彼は間髪いれず、もう70歳を過ぎているのに、「дар и испытание(ダール イ イスピターニエ)」「贈り物であり、試練である」そして「愛があるから成長できる」とさっと答えてくれたんです。そのあとも縷々解説してくれたのですが、忘れまして(笑)。が、これだけは覚えてます。

2つめに、「お願いがあるんですけど」と言ったら、「なんだい?」「今あなたの『愛しのタパリョーク』を翻訳してるんですけど、出版してもいいですか?」「何か問題があるのかい」「著者の許可が」「じゃあどうぞ。好きにやって下さい」というわけでその場で許可をいただきました。

3つめは「また男女の愛の物語を書いて下さい」と要望しました。すると「今書いているところです」本当はまだ書いてなかったみたいですが(笑)、カッコいいですよ。

一対一で直に30分くらいお話を伺うことが出来て、関西に行っただけで良かったかなあと思ったくらいです。朝8時に出て夜8時に家に戻ってきたのですが、そしたら8時半にイトマートフさんから電話がかかってきました。実はおみやげ代わりに、彼の作品に関する私の論文を翻訳したものを持っていったのですが、それが良く書けてると言ってくれて、是非発表してほしいと。「来年2月、パリでUNESCO主催のシンポジウムがあるから、そこで発表してくれ」と。「いやあ、そんな私なんかとんでもございません。ただ、参加ぐらいはしますけど」と言ったら、「それが日本人の悪いところだ。参加するからには発表しろ」とバサッと斬られてましたね。プロフィールにも書きました「心臓が飛び出しそうな」体験をするはめになりました。

2月予定のシンポジウムは3月に延びたのですが、パリに行き、UNESCOシンポジウムで発表いたしました。とにかく疲れました。朝9時から始まったシンポジウムが6時に終わってへとへとになって会場を出たら、中年のご婦人が思いっきり手を引っ張ってきまして「よく日本から来て下さいました。私はイトマートフの妻です」と言ってくれまして。それだけでも行って良かったなという気持ちになりました。

言語学習はつながっている

パリに行ったのがきっかけで、フランス語の響きの美しさに心打たれて「じゃあ、フランス語もやってみようかな」なんて

野望を抱きまして、フランスにも何度か行って、フランス語の本を厚かましくも2冊も書いたりしました。またフランスに行く途中、飛行機で隣になった荒川さんというお年を召された方が、スペイン大好き人間でありまして、何しろ飛行時間が10時間ありますから、つい仲良くなるわけです。その方と話しているうちに「スペインもいいな」と思ってスペインに行き、また、ポルトガルやイタリア、ギリシャにも行きました。で、スペイン語の勉強を始めて、これも性懲りもなく1冊本を書きました。ギリシャ語はロシア語のルーツの一つですよ。キリル文字の半分ぐらいはギリシャ文字からの借用です。それで、「ギリシャもいいな」とギリシャ語も勉強して本を1冊書かして…。そうこうしているうちに、ブルガリア語やウクライナ語もロシア語と似ているなど勉強始めて、ブルガリア語の本も出し、もうじきウクライナ語の本も出るんですが、ここまでくると、もう何やってるんだらうって感じですけど(笑)。

けれども、一つの言語を学ぶと、かなり繋がっていくということがあります。皆さんも是非、ロシア語だけでなく、ポーランド語、チェコ語、ブルガリア語なども学ぶと、全部が繋がって出来るようになっていきます。だからロシアだけに止まらずに、是非いろいろな方向に関心を広げていってもらいたいなという気がします。ポイントは、自分の中で「私は無理!」とか「できっこない!」っていう心のバリアーをまず外すことです。

～次号へ続く～

新刊本紹介

ロシア語手紙の書き方

手紙・FAX・Eメール

阿部昇吉・加瀬由希子 著



●「ずっと会えないような気がして…」

最初に出てくる手紙の例が「このままずっと会えないような気がして、死ぬほどつらいです」と書かれた手紙である。いきなりの真剣な内容にちょっと驚かされたが、この手紙がまさにこの本のコンセプトを物語っている。つまり、ロシア語話者である相手にあふれる思いを本気で伝えたい、という人たちにこそすぐに使ってもらえる本なのである。旅先でお世話になった方や贈り物をくれた方への感謝の気持ち、色々なお祝いの気持ちなどを伝えるたくさんの表現例に出会うことができる。ファンレター・ラブレターのコーナーも必見。スター達の名前(!)をはじめ、まさにそのまま使える表現満載。お気に入りの俳優・女優やスポーツ選手がいる人にとっては、ロシア語でファンレターを書き、日本に応援者がいることを伝えるのに非常に役立つ。本人のウェブサイトやブログに一言メッセージを送っても。

●親切なガイダンス

でも、ロシア文字を打ち込んでメールを送るにはどうしたら…? という方にも、この本は親切なガイダンスで対

応してくれている。Windows限定ではあるが、ロシア語入力の仕方も紹介されている。その他、手紙のマナーや封筒の宛名の書き方、手紙の形式といった基本的な内容も押さえてあるが、一方で「大事なものは形式ではない」という著者のメッセージが全体から伝わってくる。

●ロシア語の勉強に

文通やメールのやりとりを始める時に使える表現は、初対面の相手と話す時にそのまま応用できる。アルファベットの紹介のページもあれば、同時に、使われているロシア語は簡単すぎず、中級以上の学習者にとっても、その表現を磨くのに有益な内容となっている。

●ロシア文化にふれるコラム

数多くのユニークな著書を持つ阿部氏、モスクワに住み文学・演劇に造詣の深い加瀬氏のユニークなコラムは、ロシアを知る近道であり、ファンレターを書くためにこの本を手にする人たち、まだロシアに行きロシアの人と付き合う機会を持っていない人たちには特に読んでいただきたい。

日国交回復50周年記念

論文コンクール

優秀賞

「熱くて近い国」

～青木 緑(上智大学ロシア語学科2年生)～

ロシアは熱かった。気候のことではない。ロシアの人々をみて、「熱い」という印象を受けたのだ。「寒くて遠い国」と感じていたロシアが、いま私の心の中で、「熱くて近い国」になりつつある。これは、私のはじめてのロシア旅行の記録である。

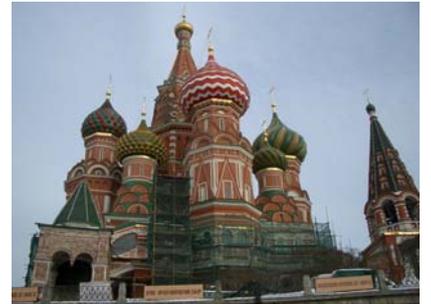
私とロシアとの出会いは、メールの送信ボタンが始まりだった。あれは、私がまだ高校生の頃。インターネットでたまたま見つけた文通相手を探すサイトで、私の目の前にたまたま現れたメッセージ。「ロシアで日本語を勉強しています。趣味はギターです。」遠くはなれた未知の国、ロシア。一年中雪と氷に覆われ、毛皮の帽子をかぶったこわい顔をした人々が暮らしているところ。そんなイメージを、高校生にもなっていないながら、私は抱いていた。隣国であるはずなのに、はるか彼方の国、自分とは何の関わりもない国だと思っていた。そんな国で、日本語を勉強している学生がいるという。興味を持って、そのメッセージを残したロシア人にメールを書いた。何を書いたかは覚えていない。何の変哲も無い、短いメールだった。まさかこの相手と、実際に会うようになるほど親しくなるとは、その時は全く思っていなかったからだ。しかしそのまさか、が現実となった。それから二年後、私とこのロシア人は、モスクワで対面したのである。しかも私は、ロシア語まで喋るようになっていた。人生、わからないものだ。獣医師になることを夢見ていた高校生が、あの日あのメールを送ったことで、ロシアという国と、恋に落ちてしまったのである。

私の文通相手となったのは、南ロシアの小さな大学で日本語を勉強する青年だった。名前はジェーニャ。彼によって、私が抱いていた氷のように冷たいロシア人のイメージは、見事に破壊された。とにかくおせっかいと言えるほど世話好きで、頻繁に来るメールの量には驚いた。メールで彼は、ロシアについて全く知らない私に、自分の国の歴史を細々と説明してくれたり、文化の素晴らしさについて延々と語ってくれたり、ロシアのこととなると、語りだしたら止まらない。熱の入れようは、異様と思われるほどだった。私たち日本人は、

自国を称えるようなことにあまり慣れていない。だから、ロシアを本当に愛し、その魅力を私に伝えようとする彼の情熱に驚き、そして感動したのだった。彼がそれほどまでに愛するロシアとは、一体どのような国なのだろう?と、興味を持つようになっていった。そんなある日、彼からロシア民謡のCDが届いた。初めてロシア語という言葉に耳をすませてみた。それは、冷酷な人間から発せられる音にはどうも聞きえなかった。ロシア語って、どうしてこんなにあたたかい響きをしているのだろう!こんなに美しいロシア語を話すロシア人って、どのような人たちなのだろう!自分でロシア人に接してみないとわからないと思った。気がつくとは、大学のロシア語学科に入学していた。そして大学生活二年目の夏、ついにロシアをこの目で見に行く機会を得ることができた。それは、冷酷なイメージのあるロシア人が、本当はどのような人々なのか、この目で確かめる旅となった。

空港でバラの花を片手に私を出迎えてくれたジェーニャは、メールの文面どおりの、ロシアを愛してやまないロシア人だった。もともと、以前、彼が韓国に短期留学していた時に、私たちは韓国で初対面を果たしていたのだが、ロシアで会う彼は、韓国で会った時と確実に目の輝きが違っていた。自分の国に、日本からはるばる文通相手やってくることを、本当に心から喜んでいて。観光名所や博物館では、私の個人ガイドとなり、何から何まで丁寧に説明してくれた。事前に予習でもしておいてくれたのだろうか?彼の情熱が私の心に熱く伝わってきた。観光地を巡るなかで私が特に気に入ったのは、教会の中の独特な空気だった。彼が用意しておいてくれたプラトックを被り、ミサ中の聖堂の中で聖歌の音色に耳を澄ませながら、ロシアの遠い昔から現代へと続く歴史の流れに思いをはせてみる。蝋燭の熱気、何百ものイコンから感じる聖人たちの熱い視線、そして熱心に祈り、イコンに接吻するロシアの人々の篤い信仰心が、古い聖堂内に熱い空間を創り出していた。そこは、私の思っていたような寒いロシアではなかった。

街中でもとにかく、人々の熱さを感じるのである。私に最高の時間を贈ろうと、さまざまな場所へ連れて行ってくれたジェーニャは、道が分からなくなり通行人に尋ねることが多かった。地図を見れば済むことだと思うのだが、人に直接訊いたほうが手取り早いのだろう。



誰もが丁寧に道を教えてくれ、また私たちも道を訊かれることが頻繁にあった。ある時はおじさんにバス停の場所を尋ねると、「あそこだよ……ほら、もうバスが来ているよ！ 乗り遅れるよ。ほら早く！」と言って私たちの背中を押してくれ、私は、自分のお父さんに注意されたような、そんな気分になった。どうやらロシア人は、とても世話好きな人々であるらしい。ある時は地下鉄で、軽く怪我をして傷から血を流している男性に、無言で絆創膏を渡す女性の姿を見た。また、買い物先で店が混雑していて帰る時間が遅くなってしまいイライラしていた私たちを、店員が駅まで車で乗せて行ってくれたこともあった。日本でこのような光景を目にすることがあるだろうか。目的地が見つからなくても、携帯電話で地図を調べれば通行人に尋ねる必要などない。たしかに私たちは便利な世の中に暮らしている。しかしその便利さが、「他人は自分とは無関係」という気持ちを生んでしまい、他人への思いやりの気持ちが忘れ去られてしまっている。冷たいと思っていたロシア人が、実はとても親切であたたかい人々だったということが、モスクワで日に日に感じられるようになっていった。そして同時に、実は日本人こそが冷たい人々になりつ



つあるのではないかと、思うようになった。モスクワでの日々は、あっという間に過ぎていった。帰国の日を目前にしたある日、モスクワのアパートに住む、ジェーニャのおばあちゃんを訪ねる機会があった。「ちょっとお茶でも飲んでいきなさい」と誘われた私は、けっきょく大きなオープンサンドを二つもご馳走になってしまった。あたたかい家庭の雰囲気の中でいただく、たっぷりのバターとカルパサを何枚ものせたオープンサンドが、なんとおいしかったことか！「ミドリ、もっともっとたくさん食べなさい」と言うジェーニャのおばあちゃんの口調は、亡くなった私のおばあちゃんにそっくりだった。家を去るとき、ジェーニャのおばあちゃんは、私をぎゅっと抱きしめてくれた。私のおばあちゃんのように、ものすごく、あたたかかった。あのぬくもりが、いちばんの忘れられない思い出となった。



日本に帰国してから、二週間が経とうとしている。モスクワでの八日間で、私が見出した結論は、「ロシアは熱い」ということ。まだまだ私の知らない部分はたくさんあるし、何よりも冬のロシアを知らないから、「ロシアは熱い」なんて堂々と語っていいのかわからない。しかし私が見てきたロシアは、とにかく、熱かったのである。帰りの飛行機では、あたたかいロシアの人々のことが思い出されて、涙が止まらなかった。私はこれほどまでに、ロシアの人々のことが大好きになっていた。

人生とは、本当にわからないものだ。ある一通のメールをきっかけに私はロシアという国と出会い、その魅力の擒となってしまう。これからもロシアの新しい魅力をたくさん見つけていきたい。そしてこの肌で感じてきたロシアの人々の熱い心を、私も受け継いでいきたい。ロシア人は、氷のように冷たい人々ではなかった。太陽のようにあたたかい人々である。今回自分へのお土産に購入したイコンの、聖母のあたたかい笑みを見るたびに私は、ロシアのあたたかい人々のことを思い出す。

ロシアは寒くて遠い国ですか？ 私にとっては、ロシアは熱くて近い国です。人々が熱い心を持って、あなたを家族のように迎えてくれる、そんな国です。

ロシアは寒くて遠い国ですか？ 私にとっては、ロシアは熱くて近い国です。人々が熱い心を持って、あなたを家族のように迎えてくれる、そんな国です。

ロシアは寒くて遠い国ですか？ 私にとっては、ロシアは熱くて近い国です。人々が熱い心を持って、あなたを家族のように迎えてくれる、そんな国です。

ロシア芸術を日本でも…

ロシア絵画の真髄



～サンクトペテルブルグ 国立ロシア美術館展～

開催場所: 東京都美術館
 開催期間: 2007年4月28日(土)～7月8日(日)
 開室時間: 午前9:00～午後5:00
 (入室は閉室の30分前まで)
 休室日: 毎週月曜日(ただし、4月30日は開室)
 お問合せ: 産経新聞社事業局 03-3275-8904
www.rusmuseum.jp

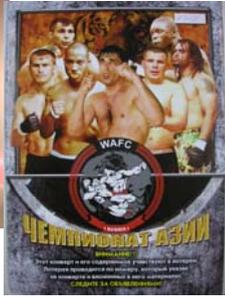
大エルミタージュ美術館展



～いま甦る巨匠たち 400年の記憶～

開催場所: 名古屋市美術館
 開催期間: 2007年1月5日(金)～3月4日(日)
 開館時間: 午前9:30～午後5時 金曜は～午後8時
 (入場は閉館の30分前まで)
 休館日: 月曜日
 お問合せ: www.ctv.co.jp/event/hermitage/
www.art-museum.city.nagoya.jp/

これがロシア版「PRIDE(プライド)」だ！ パンクラチオン!



ロシア極東ハバロフスク市の多大なる支援のもと、年々その規模を拡大している格闘イベント「パンクラチオン」トーナメント。日本で言うところの「PRIDE(プライド)」に当たる本場ロシアの格闘技です!

毎年5月と12月に行われているこの大会は、現在では首都モスクワの格闘技の大会よりも有名となり、参加選手もロシア全土だけでなく、世界10カ国(オランダ、ベルギー、ドイツ、中国、ベラルーシ、グルジア、アゼルバイジャン、アルメニア、ロシア、そして日本!)の選手が参加する一大総合格闘技イベントへと成長しています。現在、日本のプライドで世界最強といわれるエメリヤネンコ・ヒョードル選手を生んだロシア。計り知れない潜在能力を秘めたロシア人ファイター達の力を、生で見せてみたい! ということで、2006年12月に JIC スタッフが観戦してきました。そのレポートをご紹介します!

これがロシア版「パンクラチオン」～観戦レポート～

会場はハバロフスクの「プラチナアリーナ」。2003年に建設され、ロシアでも5本の指に入る規模のアリーナは収容人数7100人。各種スポーツイベントがたびたび開催されており、人気の高いアイスホッケーのアジアリーグなども行われる施設で、日本の王子製紙チームなどもホッケーの試合に来ました。内部もとてもきれいです。



これ、チケットです。チケットのイメージ画像の人、セームシュルトではないの??と思いつつ、いい記念にしましょう。さて会場内へ。列と座席番号もしっかり書かれています。

会場に入る際に、トーナメント表がもらえます。2回戦以降は自分で書き込んでねー、というわけで白紙です。この大会は3階級+スペシャルワンマッチ。日本だと年末の12月

『パンクラチオン』とは?

パンクラチオンとは、打撃技と組技(グラップリング)を合わせた、反則無しのエジプト起源の格闘技。武器を持たない兵士の実践的な格闘技術の習得を目的とし、古代ギリシャのオリンピック競技の一つでもあった。

近年、日本レスリング協会でも、国際レスリング連盟がパンクラチオンの導入とオリンピックへの採用を目指している事を受けて、導入を決定し、注目を集めている。

ロシアで行われている試合スタイルは、八角形の金網に囲まれたリングで行われるパーリトゥード(何でもあり)。熱気あふれる闘いを熱狂の観衆とともにご覧あれ!



がグランプリファイナルレベルですが、パンクラチオンは5月がグランプリファイナルレベルになっています。5月は階級の数も増え、選手層ももっと厚くなる予定です。

そして、トーナメント表に描かれたこのトラ。そう、ハバロフスクと言えば、かの有名な「アムール虎」がイメージキャラクターなのです。おー、怖っ。しかし、アムール虎は絶滅の危機に瀕しているらしく、この試合の収益金はアムール虎のために使われるそうです。

さて、いよいよ会場です! 中心に金網で八角形に囲まれたアルティメットリング! 入場口はプライドやK1 同様、1箇所に統一! スクリーンも完備されています。そして注目すべきは

VIP 席(写真)! めっちゃめちゃ贅沢な使い方です。写真ではあまりよく分かりませんが、VIP 席はアリーナ席と違ってテーブル席



で夕食を食べながら、目の前で試合が見られます。んー、ブルジョア気分。だんだんテンションが上がってきます。

会場も満席になり、真っ暗に。「おおー」という会場中のリアクションの後、スモーク&火柱とともに司会者登場! このときの司会者は現地では有名なエンターテイナーの芸能人らしいです。「アムール虎のために!」とスクリーンでは野生の

虎の映像が流れ、司会者が会場を煽り、熱一く盛り上げます！その後、ハバロフスク市長のご登場。最大の支援者はやっぱり挨拶しておかないと気がすみません。

そしていよいよ司会者は声を荒げ、「アムール(地方)に集結した猛者ども！出てこいやあ！！」(つていう感じのロシア語言ってる、たぶん。。。)

再びあがる火柱&火花&大音量の音楽とともに、闘志を内に秘めた選手が続々と登場。リング内に全員集合です。



思わず巻き舌のレニーハートの選手コールが聞こえてきそうです。

地元ハバロフスク出身のファイターなどが登場する際はひととき歓声があ

ります。ただでさえ体格の大きいロシア人が大勢集結するとそこは異様な雰囲気。ロシア以外からの参加者、グルジア・中国・日本、ほかからの選手も決して引けをとりません。全選手入場後、ロシア国旗掲揚です。

そしていよいよ、試合が始まります！各選手の入場シーンもいろんな演出があり、さらに会場を盛り上げます。

右の写真、よく見て下さい。お分かりですか？ほとんどの選手がオープンフィンガーグローブを着けていません！つまり、素手&裸足！まさにリアルファイト。生の観戦は、殴打音がリアルに聞こえてきます。



ちなみに、試合の合間のショーも盛りだくさん。跳びすぎ叫びすぎはじけすぎ！！もうみんなやりたい放題に盛り上げます。

さあ、ここから先の白熱の試合の数々は、ぜひ皆さんの目で確かめてください！



次回の「パンクラチオン」トーナメントは5月。JIC 旅行センターで観戦ツアーを企画中です。この機会にぜひ！詳細はHP掲載の予告をご覧ください！



JICモスクワ通信vol.4

待ちに待った 冬

カレンダーを見てみると、もうそろそろ冬も終わりに近づいているような気がしますが、今年のモスクワは、去年の2月はじめのマイナス30度くらいの激しい寒さと比べると、曇りと雨が降るばかりのいわゆる「ヨーロッパ的な冬・ユーロウィンター」のような感じです。雪は11月のはじめごろに少し降りましたが、それ以降は今のところ降っておらず、気温もマイナス5度より下がったことはほとんどありませんでした。ロシアでは「雪がないと冬ではない」というので、多くのモスクワ市民はこの2ヶ月くらいの日光の見えない、暖かくて暗〜い冬に悩んでいました。



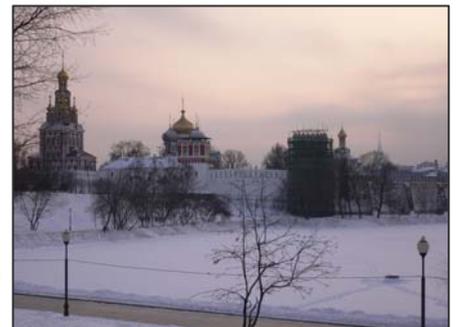
今週、やっと待望の雪が降り、気温も下がってきたので、ようやく冬に入ったような気持ちになってきました。しかし2月にもなるのに「冬に入ったばかり」とは…。また「この冬はいつまで続くか」という心配もあります。

周りの人に聞いても、「こんな冬は記憶にない」と言う人が多いです。ナポレオン戦争のときにフランス軍が負けたのは、ロシアの冬の厳しい寒さが理由のひとつだったとよく言われます。「1812年のロシアの冬がこんなだったら、歴史は違う道に進んでいただろう」という冗談もあります。「やっぱり地球温暖化だろうか」という意見はあちこちで聞こえますが、ここでロシアの有名な詩人プーシキンの「エフゲニー・オネーギン」の一節を思い出しましょう。「自然は冬のことを待っていたのに…雪が1月に入ってようやく降りだした」。

現在のロシア人は、プーシキンのように心配する必要はないかもしれません。逆に、ようやく雪が降りだしたことを喜びましょう！

トカチェンコ・ドミトリー (JIC モスクワ)

やっと冬が
やってきた！



モスクワ・ノヴォテヴィチ修道院

演劇プロデュース

チャイカ
(Чайка)

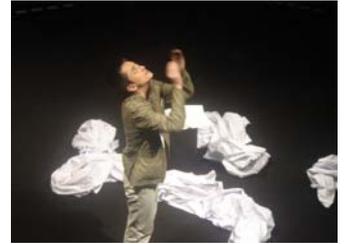
ロシアの文学作品をより多くの人に身近に感じてほしい。そういう思いをもって大阪を拠点に活動している演劇プロデュース団体のチャイカが、このたびチャーホフの作品を上演することになりました。その公演の内容を紹介します。

いじめによる青少年の自殺や、生活苦による高齢者の自殺、虐待による殺人事件など、心痛むニュースが日々報じられている昨今、何物にも代えがたい命が簡単に失われてしまうこの状況をどうすれば変えることができるのだろうか。「命の大切さ」をことばで訴えるよりも、さまざまな人の生き方に触れて、けっして強くはない人間というものを見つめることではじめて得られるものがあるのではないかと思う。

没後100年を迎えたロシアの作家チャーホフの名作『かもめ』。この登場人物たちは、現代の私たちの悩みと何ら変わらないものを抱え、生きている。自分の可能性を信じて夢みる気持ちと現実の生活とのギャップ。家族との接し方がわからず、本当は愛しているのに素直になれないもどかしさ。彼らの、それぞれに一生懸命に生きる姿の中には、「生きる」こ

とのばかばかしいほどの愛らしさと、その尊さとを同時に見ることができる。

世界中でさまざまな演出がなされてきたこの作品を、この公演ではこれまでにない、新しい表現で挑んでいく。何も無い大きな黒壁があり、



そこに登場人物が絵を描く。絵にはそれぞれの思いが込められ、物語の進行とともにその絵はどんどん増えていき、壁一面に広がり、それは「絵巻物」のように完成していく・・・。

世紀をこえてなお魅力を失わない彼らの生きざまを感じてもらい、明日からの「生きる力」に繋げていく機会としてもらえればと願う。

チャイカ プロデューサー 辻野 加奈恵

◆◆チャイカ(Чайка)とは◆◆

チャーホフ作『かもめ(ロシア語でチャイカ)』にその名を由来する演劇プロデュース団体。「現代をどう生きるか」をテーマに、国内外の良質な作品を紹介するとともに、関西における演劇文化を活性化し、すぐれた舞台作品を関西から世界へと発信、国際文化交流をおこなっている。



文化・芸術を通して人と人が触れ合うことで、世界に根深く存在する争いや偏見が少しでも減少し、生きることが困難でない社会になるよう導く努力を続け、それが可能な芸術表現活動に従事する。

チャイカ 第一回公演 『かもめ』

原作:アントン・チャーホフ 脚本・演出:外輪能隆[エレベーター企画]

<公演日時>

2007年4月21日(土) 16:00 / 19:30

4月22日(日) 14:00 / 17:30

(開演の40分前に受付開始・開場いたします)

<チケット料金>

前売 2,500円 / 当日 3,000円

<会場>

芸術創造館

Address: 〒535-0003 大阪市旭区中宮 1-11-14

Tel: 06-6955-1066 / Fax: 06-6955-7901

URL: <http://www.artcomplex.net/art-space>

<チケット取り扱い>

メール予約: chaika2007@yahoo.co.jp

(ご希望日時・枚数・お名前・お電話番号をご記入ください)

電話予約: 芸術創造館 06-6955-1006

(受付時間: 10:00-22:30)



<アクセス方法>

地下鉄谷町線「千林大宮」駅下車 4番出口より南西へ徒歩10分
京阪「森小路」駅下車 西出口より西へ徒歩10分 ほか

◆◆チャイカ・公演に関するお問合せ◆◆

～Office チャイカ～

Address: 〒552-0007 大阪市港区弁天 4-11-20-604

Tel: 06-6576-8578 Mail: chaika2007@yahoo.co.jp

チャイカ公式ホームページ:

<http://www.evkk.net/chaika/>



ウラジオストクを初訪問



初めて仕事で行く海外。
そして、初めて行く街・ウラジオストク。

私の2006年の仕事を締め括ったのは、ウラジオストクへの添乗出張である。期間は12月28日から30日までの3日間。初日は添乗、2日目はホテル視察、3日目は帰国するだけという内容だった。たったの3日間だったが、初めて訪れた場所ということで見るもの全てが新鮮に感じられた。



まず初めに、気温の低さに驚かされた。出発前、散々「ウラジオストクはアホみたいに寒い」と言われていたにも関わらず、インターネットの天気予報で調べた「-10℃前後」という表示に安心し、モスクワの冬を過ごした時と同じような格好でウラジオストクへ旅立ったのである。モスクワで-20℃を体験したことがあるため、完全に甘く見ていた。2日目の朝、某現地旅行会社の方に気温を尋ねると、「今日は-12℃だけど、風が吹くと体感温度は-40℃くらいになるよ♪」と言われ愕然とした。-40℃なんて…既に未知の世界である。

そして訪れた「鷲の巣展望台」。ウラジオストク港を見渡せて感激…するよりも先に風の冷たさにショックを受けた。-40℃は決して嘘ではなく、「寒い」というよりは「痛い」という感覚。この日はホテル視察のため、車から降りたり乗ったりを何度も繰り返していたのだが、車から降りるたびに運転手のイーゴリさんに「手袋は！？帽子は！？しっかりかぶりなさい！！！」と言われたものである。自分としては相当な厚着で来たつもりだったが、港町に吹き荒れるのは「服を着ている意味がない」と思ってしまうほどの冷たい風であった…。

2日目、昼食をとるために「ノスタルジア」というレストランに行ったのだが、このレストランには郷土のおみやげ物が売られているスペースがあった。色々な物が売られている中、日本出身であろう「萌え〜」な感じのイラストが描かれているポストカードを発見。金髪で、キラキラした大きな瞳を持つ少女。さらには頭に猫の耳

がついていて…。それを見た現地旅行会社の女性が「これは日本の絵でしょう???とっても可愛いね」と、一言。まあ確かに可愛いかも知れないが、そういう絵に萌えることが出来ない私は思わず口ごもってしまった。萌えブームはウラジオストクにもやってきているのだろうか…。

次に驚かされたことと言えば右ハンドルの車の多さだろう。モスクワよりは確実に日本車が多いという印象を受けた。さらに、「〇〇シーフーズ」「〇〇酒店」などと、車体に日本語が書かれた車も多々見かけた。まさか〇〇酒店がウラジオストクまで配達に来ているわけでもないだろうし…。と言うことは、もしかしたら盗難車?いや中古車か…。

3日目、午前11時にホテルを出発。前日にも運転手をしてくれたイーゴリさんが空港まで連れて行ってくれた。彼は運転しながら、「これは××教会だよ」「あそこに見えるのは●●大学」「この建物の裏には拘置所があるんだ」「ウラジオストクはここまでで、その印としてこのモニュメントが建っている」「このレストランは



なかなか美味しいんだけど、中心部からは遠くて観光客には使いにくいかな」「この線路がシベリア鉄道の線路で、モスクワまで繋がっているんだよ」

などと、実に様々なことを教えてくれ、その細やかな説明に感動した。

空港に到着後、ここでお別れすると思いきや中までついてきてくれ、待ち時間もずっと一緒にいてくれた。チェックインが始まり、出国手続きをしている間もずっと部屋の外で見守っていてくれ、私が振り向くたびに手を振ってくれたイーゴリさん。前の日にお会いした旅行会社の方が「イーゴリは本当に良い運転手なのよ」と言っていた意味が改めてよく分かった瞬間である。

彼が言った「冬は寒いから、夏にもう1度おいで」という言葉を胸に、また来たいなあと思いつつ大きな国の小さな空港を発った。

五十嵐 真夕 (JIC 大阪)



ロシアや旧ソ連からペンパル募集です!

ロシアに友達を作りますか?



①Name ②Sex ③Born ④Address ⑤E-mail ⑥Hobby ⑦ Languages

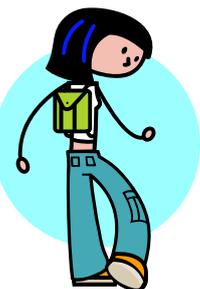
① **Kolesnikova Maria** ② Female ③ 1970 ④ Russia, Saint Petersburg ⑤ chonyid_lhamo@mail15.com ⑥ History of Russia, world ethnography and culture, music, zen ⑦ Russian, English

① **Popov Konstantin** ② Male ③ 1980 ④ Russia, Yakutia (Sakha) republic ⑤ terconmvs@yahoo.com ⑥ Football, chatting, Japanese, computer, photo ⑦ Japanese



① **Atakishv Sedar** ② Male ③ 1979 ④ Ashgabat, Turkmenistan ⑤ serdara@yandex.ru, ICQ # 196-477-532, MSN Messenger -serdargama@hotmail.com ⑥ Occupation, hobbies: I am lawyer, i am fond of computer-graphic, computer-design. I study Japanese ⑦ Turkmen, Russian, English, Turkish, Ukraine, Japanese a little bit
I want to find penpals in Japan in order to make friends, study language and simply for funny talks.

① **Kolibabchuk Victoria** ② Female ③ 1983 ④ Ukraine, Kiev ⑤ vik_sunny@ukr.net ⑥ Reading, dance, international relations ⑦ Russian, English, Ukraine



① **Pustovoitenko Nikita** ② Male ③ 1989 ④ Russia, Moscow ⑤ psihonik@mail.ru ⑥ Make fun while feel young! o(")(")o ⑦ Russian, some English

① **Nefedova Marina** ② female ③ 1985 ④ Russia, Novosibirsk city ⑤ dmarishka2003@list.ru ⑥ travels, cooking, knowing something new, Japanese cars, playing piano ⑦ Russian, Japanese

① **Haziev Ruslan** ② Male ③ 1986 ④ Russia, Ekaterinburg city ⑤ rus-khaziev@e1.ru ⑥ philosophy, Japanese languages, taiko ⑦ Russian, Japanese

① **Sapojnikova Svetlana** ② Female ③ 1981 ④ Russia, Moscow ⑤ selfishh@yandex.ru ⑥ Books, Judaism, Israel, films, Piter Greenaway, traveling, airports, tea, sad music, positive music, postrock, triphop, "lamb", Japan, anime, Russian animation, Miyazaki Hayao, to create new dress, to be cute, to read, to walk, to be alone, not to be alone. ⑦

English, Russian

① **Shmykov Igor** ② Male ③ 1988 ④ Russia, Tula region, Alexin town ⑤ pripizgennyi@yandex.ru ⑥ anime, playing guitar ⑦ Russian, English

① **Sashi** ② ? ③ 1988 ④ Russia, Vladimir ⑤ Sashi2007@yandex.ru ⑥ My historical native land - Japan, but I was born in Russia. I'm studying in college of culture and art. I take a great interest in music, including Japanese (My favourite group - Mucc). Also I go on rates on drawing, I like to photograph. I study independently Japanese language (about 1 month) ⑦ English, little Japanese, Russian
① **Ogneva Christina** ② Female ③ 22 ④ Saint-Petersburg, Russia ⑤ dorothysb@mail.ru ⑥ Profession: engineer of video & TV Hobby: reading, Japanese culture, anime, studying languages ⑦ English, Russian, a little Japanese



① **Kaunikhina Vera** ② Female ③ 1986 ④ Russia, Arkhangel region, Novodvinsk town ⑤ mgs3079@atnet.ru ⑥ Occupation: student Hobby: Reading, drawing, I like science fiction, fantasy, I am interested in Japanese culture ⑦ Russian, English



① **Popov Alexei** ② Male ③ 1973 ④ Russia, Moscow ⑤ kameta_projekt@yahoo.com ⑥ Occupation, Hobby: I'm interested in Japan fashion industry, street style, unusual things that people carry on. Also interested in design of clothing store. ⑦ Russian, English

① **Popov Valera** ② Male ③ 20 years old ④ Ukraine, Kiev ⑤ valera.popov@gmail.com ⑥ Profession: student of the university, studying Information security. Hobby: Astronomy, cycle racing, cooking, listening music (rock), languages (Japanese, beginner), seeing "anime", reading scientific fantasy. ⑦ a little English, Russian

① **Boranbay Asilbek** ② Male ③ 1987 ④ Kazakhstan, Almaty ⑤ aceka_pctl17@list.ru ⑥ cinema, computer games ⑦ Russian, Turkish, English, Kazakh



① **Iltchenko Anton** ② Male ③ 1983 ④ Volgograd, Russia ⑤ mail4tosha@mail.ru ⑥ Japanese

culture, Japanese language, music, films, art, tea ceremony
⑦English

①Golubev Ivan ②Male ③1988 ④Russia, Tikhvin town ⑤
oduvanchikmasha@yahoo.com ⑥

Travelling, music, Asia ⑦ English,
Russian

①Skryabina Svetlana ②Female ③
1976 ④ Russia, Toliyatty ⑤

skryabinas@list.ru ⑥I work at the
Psychology Faculty of the local
University. I am fond of music,

movies, art, and literature. I would like to contact with
somebody who takes interest in Japanese culture, Russian
culture, who is fond of life. ⑦Russian, English

①Novikova Marina ②Female ③1987 ④Russia, Chelyabinsk
⑤silencium@index.ru ⑥Japanese culture, Shinto, anime,
manga, literature and people ⑦Russian, English

①Alla ②Female ③Age:17 ④Russia, Moscow ⑤
esmer-san@yandex.ru,
menezis-moon@mail.ru ⑥Student of
high school. Hobby: anime, listening
music, reading, Japanese culture and
literature, modern Japan, royal
dynasties of the world, drawing,
cinema ⑦Russian, English, a little Japanese



①Kormilina Olga ②Female ③Age:17 ④Russia, Chelyabinsk
⑤lusiferka13@mail.ru ⑥Student of an university. Hobby:
anime, manga, painting, reading, listening music, Japanese
culture, mathematics ⑦English, Russian

①Chezhina Svetlana ②Female ③Age:21 years old ④Russia,
Chelyabinsk city ⑤aoyuki@rambler.ru ⑥Profession: artist,
draw and design. Hobby: Meeting with
friends, cinema, drawing, reading,
cookery ⑦English, Russian, a little
Japanese. I would like to talk with
Japanese friends!!!

①Akulov Mikhail ②Male ③Age:20
years old ④? ⑤serdceserdce@hotmail.com ⑥Student of
university. Hobby: violin, piano, Korean drums, music,
cinema, fun ⑦English, Japanese, Russian

①Humens Anna ②Female ③1990 ④Russia, Voronezh ⑤
annna_melos@mail.ru ⑥Profession: student of high school.
Hobbies: music, drawing, anime ⑦English, Russian

①Zaharova Maria ②Female ③Age:21 ④Russia, Moscow ⑤
shiho_mari@yahoo.com ⑥Profession: student of
Pedagogical university (study geography, biology and
English). Hobby: Japanese culture, arts, history, Japanese



rock and visual kei music, asian movies and TV-dramas,
photo, practice in English, reading fantasy, drawing, figure
skating ⑦Russian, English

①Vasilieva Marina ②Female ③1990 ④Russia, Chelyabinsk
region ⑤fujiko-chan@mail.ru ⑥Reading, internet, tennis,
Japanese language, J-rock ⑦Russian, English

メールを出すときには・・・

手紙は、特に日本語の記載がない場合には、ロシア語
か英語で書きましょう。日本語の場合は、簡単な言葉を使
いましょう。ただし、相手のパソコンでは日本語が文字化
けして読めないこともあるので、最初のメール
は英語で書くのが無難です。

まずは思い切ってトライしてみましょう！
素敵なお友達ができますように！



ロシア民謡とバラライカ

ロシア民謡はその哀愁を帯びた叙情性、美しい旋律か
ら、外国の歌としては日本人に最も愛され、歌い続けられ
てきたものの一つであることは言うまでもありません。今回
は、ソビエト時代に映画化もされたロシアのロマンチック
な民話「石の花」を取り上げ、演劇風に纏めてみました。
特設の喫茶室で歌を聴き、また歌いながらロシア気分に
浸っていただけたら幸いです。お越しいただいた皆さん
全員が楽しく気軽に交流し、お友達になってお帰りいた
だけるよう願っております。



「ロシア民謡歌声喫茶Ⅳ」

主催：アストライアの会

共催：au bon café

協力：日ロ交流協会



ゲスト：和田オリガ女史(フォーク・グループのモスコヴ
イチで活動し海外公演多数)、東京外国語大学ロシア文
化サークル・ルムーク、劇団文化座より数名友情出演。

演奏：八田圭子女史(東京バラライカ・アンサンブル首席
奏者、ユーラシア協会理事)

日時：2月25日(日)14:00～17:00

場所：豊島区立勤労福祉会館第7会議室

(東京・池袋西口徒歩5分)

費用：2,000円(お茶代込み)

特典：「国際交流喫茶」「チャイカ」参加者全員に共通利
用券をプレゼント！

連絡先：049-258-3218 担当：松原

ロシア語学習のお供に・・・ 新刊のご案内

～手元におきたいロシア語の実用書～

『ビジネスロシア語』 さとう好明著(東洋書店)

現場にしながら次々と著書を出版され、その精力的な活動に驚かされていた著者のビジネス書が出た。さとう好明著『ビジネスロシア語』(東洋書店・2100円・発売中)である。

この人はすごいと思う。30年にわたり、ソ連およびロシアで商社の駐在員など、現場でとぎれることなくロシア人・ロシア語とかわりももち続けてきた生粋のビジネスマン(自称「絶滅危惧種」)であると同時に、膨大な数のロシア語の書物を読みこみ、アネクドートを通じたロシアの大衆文化の研究で独自の分野を開いて、けっして簡単でない「二足のわらじ」を履き続けてきた。著者の強みは、長い実践でつちかったロシア語とその背景の大衆文化研究から、文法書の一般的な解説の枠をこえた、ことばの細かいニュアンスまで踏み込めることだ。ことばに強いだけではない。とても親切な人でもある。今まで積みあげてきたその知識を後進のために惜しみなく提供してくれているのはロシア語学習者にとっては嬉しいかぎりだ。

普通、ロシア語学習者は、大学でロシア語学習を終えるとその先が見えない。中級、上級へと進む道は自分で切り開いていくしかない。まだまだロシア語分野では、英語のようにレベルに応じた学習書がよりどりみどりという環境にはないからだ。著者は、自分のホームページで、ロシア語上達法をていねいに紹介し、後進のロシア語学習者を励ます(<http://homepage3.nifty.com/LAMPOPO/>)。最近「閑話



傍題(アネクドートの小部屋)」で「黒帯研究会」(<http://rosianotomo.com/blog-anekdoto/>)を主宰して中級者向けの指導も行っている。ロシア語学習に行き詰ったら一度こんなところで気晴らしをしてみるのはいかが。アネクドートで笑ったあと、ついでに何かを得てリフレッシュできる。

今回出版の『ビジネスロシア語』は、実践の場で使える即戦力のロシア語、選りすぐりの表現を集めたロシア語便利帳である。ロシア語での初対面のあいさつから電話のかけかた、メールの送り方、クレーム処理にいたるまで数々の文例が収録されている。ビジネスだけでなく、ロシア語学習者ならだれにでも役立つ便利な表現がまとめて出ている。たとえば、知りあいのロシア人に祝日や誕生日、結婚のお祝いを言いたいけれどいい表現が思いつかない、ロシア語の名刺を作りたいんだけどどうすればいいんだろう、などの疑問も解決してくれる。ロシア語学習者の常備の実用書といえよう。駐在員など専門のビジネスマンの方は、著者編訳で既刊の『ロシア語ビジネスレター』(ナウカ・5586円・1993.6)と併用すれば完璧だが、本書はナウカ社閉店のため今ではまぼろしの本となってしまった。ついでに事前に著者の『ロシア式ビジネス狂騒曲』(東洋書店・1680円・2006.6)を読んでおけば、ロシア人気質や背景にある大衆文化を理解できる。

著者はまたロシア語学習書『アネクドートに学ぶ実践ロシア語会話』(東洋書店・1995円・2006.9第2版)も出している。わが家にあそびに来たロシア人女性がこれを読んでお腹をかかえて笑いころげ、「ワタシこの本ほしいよ。このオトコ(著者)会ってみたいよ」という。彼女の反応からすると、この本にはロシアの大衆文化がよほどぎっしり詰まっているのだろう。数日後電話があり、すでに買ったので日本人にロシア語会話を教えるテキストとして使うという。彼女が生徒たちに日本語で同書のアネクドートや背景のロシアの大衆文化を上手に解説できたかどうか私は責任をもたない……

JIC友の会会員 吉田 春子

2007年9月・夏のロシア語短期研修旅行



サンクトペテルブルグ大学ロシア語研修

次は
あなたの番!

2週間のサンクトペテルブルグ大学でのロシア語研修とペテルブルグ市内観光、モスクワ旅行までセットになった毎年恒例・好評の研修プランです。ロシア語のレッスンも観光旅行も十分に堪能いただけるお勧めのプランです! 詳細は近日中に発表いたします。まずはJICのホームページでチェックしてください。次号のインフォメーションでもご紹介いたします。

「現地でロシア語を習ってみたい、でもどうせ行くなら観光スポットもはずせない!」「長期で留学してみたいけど、急にはできないから、ちょっと下見に・・・」「旅行とは一味違う体験がしたい!」「全国のロシア語仲間から刺激をうけたい!」「ロシア語がどれだけ日常生活で通じるのか試してみたい!」そんな方々にお勧めです。

近日発表!!

&モスクワ旅行



JICロシア語講座 ◆TOKYO◆

～4月2日(月)から順次開講 前期 全18回～

期間:4月2日(月)～9月28日(金) 全18回
受講料:54,000円(学生割引・2講座同時受講割引あり)
定員:1クラス4～8名程度
会場:ロシア情報センター(東京・四谷)
お問合せ:JIC 東京 TEL:03-3355-7287 FAX:03-3355-7285

◆レベルのご相談はお気軽に◆

- 入門 I (火曜日 19:00-20:30) アルファベットからスタート!ロシア語を一からはじめましょう。
- 入門 II (月曜日 19:00-20:30) 少しロシア語をかじったけど、文法はまだまだという人向けです。
- 初級 (月曜日 19:00-20:30) ロシア語のやさしい文章を読みながら、会話にも慣れていきます。
- 中級 (水曜日 19:00-20:30) 語彙を増やしながらどんどんロシア語で会話していきましょう。
- 上級講読 (木曜日 19:00-20:30) 小説を中心に読み進めながら語学力をアップさせましょう。
- 上級会話 (金曜日 19:00-20:30) 新聞や物語など様々な題材を用いながら、会話力をアップさせましょう。
- 土曜講座① (土曜日 10:15-11:45) 絵本・ビデオ・音楽などを使って勉強します。中級から上級者が対象。
- 土曜講座② (土曜日 12:00-13:30) ビデオを用いてロシアへ仮想旅行しながら街歩きに必要なロシア語を勉強!



JICロシア語講座 ◆OSAKA◆

～4月16日(月)から順次開講 前期 全15回～

期間:4月16日(月)～ 全15回
受講料:35,000円(学生割引・2講座同時受講割引あり)
定員:1クラス5～10名程度
会場:JIC 大阪オフィス(大阪・天満橋)
お問合せ:JIC 大阪 TEL:06-6944-2315 FAX:06-6944-2318

◆講師はいずれもネイティブですよ◆

- 入門 (火曜日 19:00-20:30) アルファベットからスタートしましょう。ロシア語を一からはじめる人向けです。独学では前に進めない方、ぜひご参加ください!
- 初級 (木曜日 19:00-20:30) 少しロシア語をかじったけど、まだまだこれからという人向けです。文法勉強しながら会話を楽しみましょう。
- 中級 (金曜日 19:00-20:30) ロシア語のやさしい読み物を使って語彙を増やしながら、どんどん会話にも慣れていきます。
- 上級 (月曜日 19:00-20:30) 身についたロシア語を用いて会話力を磨きましょう。自分の意見もロシア語で表現できるように訓練します。留学経験者にもお勧めです。

詳細は資料をご請求下さい。東京・大阪とも無料体験レッスン(1回)可能です!
(注) 定員に満たないクラスは開講されない場合があります。

Краткосрочный курс Японского Языка

ロシア語で教える日本語講座@TOKYO

期間:4月10日(火)～9月末 全36回
火曜日と金曜日の週2回
受講料:81,000円(別途、教材費が必要になる場合あり)
会場:ロシア情報センター(東京・四谷)
お問合せ:JIC 東京 TEL:03-3355-7287 FAX:03-3355-7285

◆詳細はお問合せください◆

Первый Семестр 2007-го года

- ◆Занятия с 10.04, всего 36 уроков.
- ◆Длительность урока – 90мин.
- ◆Место проведения :JIC Российский информационный центр (5мин.от станции YOTSUYA SAN CHO-ME, MARUNOUCHI LINE)
- ◆81,000 йен за полный курс (2,250йен за один урок)

無料体験ご希望の方、
ご連絡ください!

日本語講座

Расписание

- Элементарный курс(入門クラス)●
16:00-17:30
- Базовый курс(初級クラス)●
13:30-15:00
(По вторникам и по пятницам)

2~5月の予定

- 3月4日(日) JIC 春のロシア語短期研修旅行出発
- 3月10日(土) 長期留学4月生 事前説明会(東京)
- 3月11日(日) 長期留学4月生 事前説明会(大阪)
- 4月上旬 JIC 長期留学生出発
- 4月2日(月) JIC 東京 ロシア語講座 前期スタート
- 4月10日(火) JIC 東京 日本語講座 前期スタート
- 4月16日(月) JIC 大阪 ロシア語講座 前期スタート

ロシア語講座・日本語講座については、15ページをご覧ください！
ホームページでも詳しくご紹介しています♪
お問合せはお気軽に！

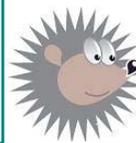
◆営業時間変更のお知らせ◆

国際親善交流センター(JIC)およびJIC
旅行センターの平日の営業時間が2007
年4月から変更になります。

現行 10:00-19:00

2007年4月~ 10:00-18:00

よろしくお願ひいたします。



JICのホームページを
チェックしよう!

<http://www.jic-web.co.jp>

ロシア長期留学9月生・募集中

【期間】2007年9月より10ヶ月

【締切】2007年6月15日

予価

モスクワ国立大学 \$7200 (授業料10ヶ月)

サクト・ペテルブルグ国立大学 \$4090 (授業料10ヶ月)

ウラジオストク極東大学 \$2800 (授業料10ヶ月)

*上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代
金及び取得手数料などががかかります。



ロシア語グループ&個人研修(随時募集)

リテン&デンツ スイスの会社出資のロシア語学校。

個人・グループレッスン。モスクワとペテルブルグにあり、インターナショナルな雰囲気。初心者より上級者まで。2週間より可能。基本はホームステイ2食付。詳細はパンフレットをご覧ください。



NEW デルジャーヴィン・インスティテュート

全ロシアプーシキン博物館の協力により設立された学校で、18世紀の建物内で授業が行われます。アットホームな雰囲気でお勧めです。グループレッスン、1週間より可能。基本はホームステイ2食付。詳細はパンフレットをご覧ください。



ロシア語個人研修(随時募集)

☆モスクワ・ダリパス社 1週間~1ヶ月(ホームステイ3食付)

☆モスクワ大学 1週間~長期(大学寮1人部屋)

☆G&Rインターナショナル 1週間~長期
(ホームステイ2食付/大学寮2人部屋)

☆ペテルブルグ・パートナー社(ホームステイ2食付)

☆ペテルブルグ文化大学 1週間~長期

(ホームステイ2食付/大学寮)

☆ウラジオストク極東大学 1週間~長期(大学寮1人部屋)

☆ウラジオストク極東大学 1週間~1ヶ月(ホームステイ2食付)

☆ホームステイ生活体験コース 1週間~4週間

ロシア留学旅行相談(東京・大阪各事務所)

ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に
応じます。お気軽にお越しください。

東京事務所 平日10-19時 土曜10-16時

大阪事務所 平日10-19時 土曜(6-9月のみ)10-16時
(4月より営業時間が変わります。ご注意ください。)



旧ソ連関係のイベント案内掲載をご希望の方はJICまでご相談ください。イベント時期の約2ヶ月前に情報をお送りください。JICインフォメーションの発行は、1・2・4・6・9・11月の6回となります。

掲載内容がJICの活動に合わない場合はお断りする場合がありますのでご了承ください。

留学・研修各種パンフレットはJICへ
ご請求ください。留学・旅行相談お気軽に!

~Jクラブ(JIC友の会)のご案内~

JICインフォメーションを年6回、またJICのイベント案内をもれなくお届けします。
ご希望の方には入会案内をお送りいたしますので、ご連絡ください。

国際親善交流センター